小十人組留書　一

浪

内閣文庫
和書
類
號 三二五六九
冊 三九二
函 一五二
架 一七

内閣文庫
番號 和 32569
冊數 394 (358)
函號 152 121

共八

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

寛永九申年八月十八日

吉田彦右衛門清政三男
小十人鈴木新右衛門組

小十人落合小平次組

百俵　吉田勘九郎宣重

改半四郎

寛永十一戌年五月十日小十人組頭

同年十二月廿七日御加恩百俵　凡二

百俵

正保四亥年十二月同日御加恩百俵

凡三百俵

万治二亥年五月九日御具足奉行

寛文五乙年十二月十九日死

宜重嗣なりし先ハ家継て三百俵
を賜ふ也

寛永九申年八月廿二日

小十人落合小平次組　百俵　大御番能登組柘植小左衛門宗當二男　柘植清大夫宗彦

後二百俵

其后廩米百俵を加ふ

寛永十九午年十二月十六日並御加恩

百俵凡二百俵

万治二亥年辞入小普請右京亮組

貞享元子年十二月廿五日死　六十八歳

寛永九申年八月廿二日

山岡傳右衛門景重二男
大御番安部摂津守組傳右衛門景信弟

小十人落合小平次組

百俵　山岡治右衛門景成

其後廩米百俵之加増

寛永十二亥年　月　日御納戸

寛永九申年八月廿二日

初都筑平右衛門法久次男
御納戸都筑平左衛門則久弟

小十人落合源右衛門組

百俵
後二百俵

都筑瑞之助法好

改 平右衛門
市左衛門

寛永十一戌年三月廩米百俵下之
給之

寛永十九午年十二月十六日並御加恩
百俵凡二百俵

慶安元子年六月十四日新御番遠山十右衛門
組

寛永九申年九月

小十人落合源右衛門組　御天守番石川九兵衛法久次男

百俵　石川喜右衛門久吉

後二百俵

寛永十一戌年二月廩米百俵之拝領

寛永十九午年十二月十五日御加恩百俵

凡二百俵

慶安三寅年九月九日組替同小十人川田吉兵衛

組

寛永九申年十二月十九日

上田喜兵衛門正次三男
大御番小笠原三左衛門組喜左衛門正重弟

小十人落合源右衛門組

百俵　上田喜三郎政方

後二百俵　後源左衛門

二之後廩米百俵ニ候処
寛永十九午年十二月十六日百俵を
加へ被下之凡二百俵

慶安元子年七月　日　御腰物奉行

正保二酉年閏五月九日

小十人組居二番岩間組

岩間勘左衛門時無服
御番外之人

二百五十俵 岩間勘左衛門 某

後 勘兵衛

正保四亥年十二月廿八日

小林長右衛門重成次男
小普請

小十人今宮居三郎右衛門組　二百俵　小林市右衛門正守

慶安元子年六月十四日新番駒井右京組

浅羽次左衛門成政惣領
小普請

正保四亥年十二月廿六日

寛永三寅年済日

小十人番居三宅右衛門組

二百俵 浅羽金右衛門成儀

政 三太夫

寛文元丑年五月廿六日御書物奉行

貞享四卯年九月五日死

正保四亥年十二月廿五日

石川九右衛門法久無願
御番外之人

跡目
小十人多后三右衛門組

百俵吉
石川七左衛門法次

慶安元子年二月廿五日元方御納戸

正保四亥年十二月廿五日

遠山三左衛門京重惣領
御中番外之人

寛永十二亥年弥日

小十人宮城三右衛門組

百五十俵

遠山三左衛門景吉

寛文二寅年十月廿六日元方御納戸

正保四亥年十二月廿五日
里見宗安正具第三男
御小納戸里見伊兵衛具教弟

小十人為居三百俵廩米　十口　里見助之丞具堯

後百俵十口　改甚四郎

慶安元子年五月五日十口之給ハる
慶安三寅年十二月廿七日廩米百
俵を給ハる凡百俵十口
寛文三卯年四月日光の御供に
ゑてこうむ

寛文十戌年十月六日拂方御納戸

正保四亥年十二月廿五日

大御番

小十人各務三郎右衛門組　十口

継松波宇右衛門実二男

松波太郎右衛門友明

後百俵十口

慶安元子年閏四月五日十口之跡ニて

慶安三寅年十二月廿七日蔵米

百俵之外ニて凡百俵十口

寛文三卯年十二月廿五日死

正保四亥年十二月廿五日

御広敷番之頭依田権左衛門信忠二男

小十人高橋三右衛門組　十口　依田次左衛門信種

後百俵十口　改吉左衛門

慶安元子年四月五日十口を被下

慶安三寅年十二月廿七日廩米百俵を被下て凡百俵十口

万治二亥年十一月九日小十人組頭

同年十二月廿三日御加恩を被下て

四百俵となる

寛文三卯年四月日光の御供に

右ハこの巳
延宝七未年　月　日拝
組中となり
貞享三寅年二月三日死

正保四亥年十二月廿五日
小十人會居三正蔵組
河野小兵衛通次次男
十口　河野与兵衛通貫
後百俵十口
慶安元子年五月五日十口之加増
慶安三寅年十二月廿七日廪米百
俵之加増
寛文三卯年四月日光の御供ニもれ
右ハこの巳
貞享三寅年十一月十六日死六十五歳

正保四亥年十二月廿六日

宅間伊織次男
御書院番水野下総守組伊織憲之弟

小十人鳥居三郎右衛門組　十口　宅間五郎右衛門憲治
改　内蔵助
与左衛門

慶安元子年四月五日十口と給る

慶安三寅年九月三日組移小十人川田吉兵衛組

正保四亥年十二月廿五日

丸毛内匠利久二男
大御番高木備中守組兵庫利世猶父

小十人番居三右衛門組　十口
後百俵十口
丸毛権右衛門道次

慶安元子年五月廿五日十口ニ被下
慶安三寅年十二月廿七日廩米百俵
ニ被下
寛文四卯年五月日光の御供に
まかりこう人ハ無足白銀拾枚ヲ被下

延宝四辰年十二月四日死

正保四亥年十二月廿五日

小普請酒井紀伊守組曽雌助右衛門次男

小十人島居三右衛門組　十口　曽雌本之丞定与

後百俵十口　後権右衛門

慶安元子年五月五日十口と給り候

慶安三寅年十二月廿七日御蔵米百俵

と給りて凡百俵十口

寛文三卯年四月日光の御供に

たてこうむ

寛文九酉年四月四日番入戸田備後守組

延宝四辰年五月四日死

慶安三寅年九月三日

御小性組安藤伊賀守組伊野九左衛門貞昌次男

小十人番頭三宅右衛門組　十口

後百俵十口

伊野八左衛門貞重

同年十二月廿七日十口と孫ヲ足

承応元辰年十二月廿八日廩米百俵

と孫ヲ九百俵十口

万治二亥年　掃入伊澤隼人正組

寛文三卯年十二月十五日死

慶安三寅年九月三日
御裏御門番之節小林勝之助正忠二男
小十人多賀左近衛組　十口　小林孫右衛門正秀
後百俵十口　改十七歳
同年十二月廿七日十口之御足
承応元辰年十二月十八日廩米百
俵之御足ニ成凡百俵十口
寛文三卯年四月日光の御供ゐ
そくこうひ
寛文七未年辞　組
天和元酉年九月廿六日元組小十人

淺見九郎兵衛組へ帰番

慶安四卯年三月十八日

寛永十五寅年九月　日番同

小十人組ゟ御書院番組　二番

淺原又三郎改猪忠順

小普請

淺原又右衛門安村

延宝五巳年四月廿二日死

寛延元辰年二月　日

久保吉右衛門正元三男
小十人三宅半七郎組

小十人多賀三郎右衛門組　百俵十口　久保新右衛門正勝

万治元戌年七月十九日新井安房守秋元三郎右衛門組

嘉永元申年　月　日

竹本播磨守正将三男
小十人天野三郎兵衛組

小十人格部屋住組　十口　竹本武兵衛正参

後百俵十口
二百石

嘉永元申年十二月十八日廩米百俵
之通り

万治元戌年十二月　日父ノ遺跡
二百石之通り　覚兄八左衛門正信・同兵衛門正武二人之内
磯田の御舘小屋ニ召し出し候者なり
覚道の百俵十口ハ之レ其外父
大御番の筋ニ而はとそ

万治二亥年二月四日大御番大久保右京亮
組

慶安二己年三月　日

小十人名倉三郎右衛門組

山岸傳右衛門弟重二男
小十人天野三郎兵衛元組

百俵十口　山岸傳次右衛門宗尚

寛文三卯年四月日光の御供ニ随之

寛文八申年五月七日元方御納戸

寛文元丑年四月十二日

松波七郎右衛門友明忠子
小普請本多飛騨守組

小十人鳥居三右衛門組　百俵十口　松波長四郎正重

後改　右衛門

寛文三卯年四月日光の御供ゟ
帰りての已

延宝元丑年十二月廿一日新御番駒井右京組

寛文二寅年十月九日

丸毛牛之助重成三男
御膳奉行丸毛三郎兵衛重清弟

小十人鳥居三郎右衛門組　十口　丸毛五右衛門重友

後百俵十口

同年十二月廿二日十口を被下

寛文三卯年同月日光の御供に

まてさう元

寛文四辰年十二月廿五日廩米百俵を

被下都合百俵十口

元禄十二卯年十二月十五日番入大久保玄蕃頭組

正徳二辰年十月廿七日死八十四歳

寛文二寅年十月十八日

小十人番居三郎右衛門組

川口長三郎正武六男
御使番川口源左衛門政信弟

十七 川口七郎右衛門信之

後百俵十口

同年十二月廿二日十口を給ふ
寛文三卯年四月日光の法会の
ときとうハ拙者白銀三枚を給ふ別に
合十枚を下さる 是ハみなみなの如く拝領の禄に加へらる所なり
寛文四辰年十二月廿五日廩米百
俵を給ふて元百俵十口
寛文五巳年七月十八日信州諏訪領

寛文五巳年十月

松本順論訴様子御国ニ不審有之由
此ときの御使ハ松浦采女なり
御帳差合一枚ニ而相済ニ成より
総勘定ニ而御用ニ付而帰る

同年十二月四日小十人組頭

同年十二月廿五日御加恩百五十俵是
まての十口も蔵米ニ成し候なり

凡三百俵

寛文六午年七月廿日御役料百俵
を給る

寛文七未年十二月本所ニて
居郎の地五百七十坪を給り明の
こし地形料として金二十八両
を給る

延宝七未年三月　日 持入戸田備後守
組

天和二戌年十月廿六日本所の郎
御用なるよしにて取上ニ成る代と
して青山宿青山大膳亮の
上地のうち五百坪を給り明屋
貞享元年青山の郎をうけ取八月
十日本所の郎を取上ケ同月十八日
青山ニ而移徙

元禄十丑年二月　日 致仕

元禄十六未年六月十九日七十三歳ニ而死

寛文二寅年十月九日

小十人組居ニ而右筆組頭　古

後百俵十口

長左衛門　子
水野興三郎

同年十二月廿二日十口と移了

寛文三卯年四月日光の御供に
たてこう死

寛文四辰年十二月廿五日廩米百俵
と移了

寛文二寅年十月九日

御小性組本多兵庫守組矢橋太郎右衛門重頼二男

小十人各務三郎右衛門組　十口　矢橋六郎兵衛重之

後百俵十口

同年十二月廿二日十口を被下

寛文三卯年四月日光の御ともに

てこゝの節

寛文四辰年十二月廿五日廩米百俵

を被下凡百俵十口

拝入瀧川

長門守組

天和三亥年五月廿五日元組小十人
平野九左衛門組へ帰番

寛文二寅年十月九日
小十人頭堀三左衛門組　本御家
十口
後百俵十口
八木六左衛門吉勝　組八木六左衛門宗信二男
改　六左衛門
同年十二月廿二日十口を給りて
寛文三卯年四月日光の御供に
めしつれらる
寛文四辰年十二月廿五日廩米百俵
を給りて凡百俵十口
元禄十丑年五月廿一日御腰物奉行

国立公文書館
National Archives of Japan

寛文二寅年十月十八日

河尻数之丞清宗次男
大御番植村出羽守組八郎左衛門清貞弟

小十人倉橋三左衛門組　十口　河尻長左衛門清資

改　市左衛門
七左衛門

同年十二月廿二日十口を給て
寛文四辰年十二月廿五日廩米百俵
を給て凡百俵十口
寛文八申年十二月三日山城国京の采地
新次に加へて八合二千畝をかし給る
天和二戌年十二月廿六日いとまこ居郎

なをれハ市ヶ谷本村松平摂津守
上地のうち三百坪を給る
貞享元子年十二月八日死五十二歳

寛文二寅年十月九日
森川八左衛門重氏二男
大御番松平備後守組又左衛門重時弟
小十人今居三右衛門組　十口　森川又左衛門重房
後百俵十口　改源左衛門
同年十二月廿二日十口を給り
寛文三卯年四月日光の御供に
随ふ
寛文四辰年十二月廿八日廩米百俵
を給ひ凡百俵十口
貞享元子年八月十八日新番大久保伊豫守
組

寛文二寅年十月九日

小十人倉橋三郎右衛門組　御小性組　十四　大沢十右衛門基勝　父大沢兵部基清四男

後百俵十口
三百二十六石九斗
後有田十右衛門

同年十二月廿二日十口を給ふ
寛文三卯年四月日光の御供に随ふ
寛文四辰年十二月廿五日廩米百俵
を給ふ凡百俵十口
寛文七未年有田九郎兵衛吉成の嫡
壻養子となりしにこれまて小十人組を勤

ひへしと御出させ有田十左衛門殿
延宝元丑年十二月十一日跡目三百廿
六石九斗余是までの百俵十口は
返し被成
延宝七未年四月七日小十人組ニ
天和二戌年四月廿二日並御加増百俵
凡四百二十六石九斗余
元禄十丑年四月廿九日御廣敷番之頭
元禄十三辰年九月廿六日死五十九歳

寛文二寅年十月九日
小十人番ニ而右渡組　十口　間宮六三郎盛俊
新御番組頭間宮七郎左衛門後二男
後百俵十口
後　次郎兵衛
然太夫
同年十二月廿二日十口を被下
寛文三卯年四月日光の御供に
召つれらる
寛文五巳年十二月廿五日廩米百俵
を被下凡百俵十口
寛文七未年十一月廿一日御書院番大御番ニ戸田

備後守組

寛文二寅年十月九日
神田御殿ゟ御渡被成候中根九右衛門実二男
小十人鳥居三右衛門組　十口
後百俵十口
中根九右衛門正之
同年十二月廿二日十口ニ被下置
寛文三卯年四月日光御法会ニ随ひ
寛文四辰年十二月廿八日廩米百俵
ニ被下置合百俵十口
元禄五申年十一月九日新御番大久保伊豫守
組

寛文十二子年十二月十六日

服部三郎兵衛昌成次男

小普請飯川長門守組

明暦二申年　月　日跡目

小十人高居三百石番組　二百俵　服部平三郎豊昌

改　三郎兵衛

市郎右衛門

右居小本永みて三百六十坪の居
屋敷の地を給る
天和二戌年北本所の屋敷御用ニ付
上り候ニ付代地として
小石川築地若根平兵衛跡の地
三百十五坪を給る

貞享元子年十二月廿二日小十人組ニ成
同年十二月廿一日御加恩百俵凡二百俵
宝永元申年五月廿六日御天守番
ニ成
宝永七寅年五月十五日番入松平
主計頭組
享保四亥年八月二日為伊丹兄隠居
支配
享保六丑年二月二日死 八十二歳

寛文十一亥年四月十六日
小十人ゟ居三百俵組 拂方御納戸久保田八兵衛采相續
百俵古 久保田又八郎采
後二百俵
延宝元丑年十二月十九日廩米百俵
十口之給之
元禄六酉年七月十二日跡目二百俵
是迄之百俵十口ハ返し納る
元禄八亥年十二月廿二日追放
同日浄之訴ニ而さされて紀伊殿の
門ニ而法紙となせし事ニ而て

御先明かるしに
露姫君え御附被仰出新番より私の
うらみあるよしとかくすとらへ
出きと失敬こあうへなく不届の
仕合にてよしとし退散ニ處せられ
二百俵を收られて家絶となり

延宝三卯年十二月七日
延宝元丑年十月廿一日家督
小十人組より西丸書院番組
次之番宿加番頭
小笠原太久保右京亮組
二百俵　澤　依助宥則
改　喜兵衛
貞享元子年八月十八日新番大久保伊豫守
組

延宝四辰年四月廿六日

松市右衛門重世惣子

小普請大久保山城守組

寛文六午年十二月十一日跡目

小十人渡辺九郎左衛門組

二百俵　松源左衛門重春

元禄十丑年八月十二日小十人組頭

享保元申年二月十八日富士見御宝蔵番之頭

享保六丑年四月廿七日死六十四歳

延宝六午年三月廿九日

小十人田中惣兵衛組助左衛門惣領

小十人渡辺九郎兵衛組　十口　大岡吉七郎重則

後百俵十口　改　七左衛門

二百俵　市郎左衛門

一

同年四月十口を給り

延宝七未年五月十五日廩米百俵を

給りて凡百俵十口

貞享三寅年七月十日跡目二百俵

是まての百俵十口ハこれを収ム

貞享三寅年十二月十九日元方御納戸

延宝六午年十二月廿九日

小十人深見九郎兵衛組　十口　後百俵十口　二百石

小十人山本十兵衛組茂兵衛某惣領

山中茂七郎某

同年四月廿一日十口と給り

延宝八申年三月廿六日廩米百俵と

給り都合百俵十口

貞享元子年十二月十六日深国二百石

是迄の二百俵ハ返し献る

元禄五申年十二月十五日御腰物方

延宝六午年三月廿九日

大坂御弓奉行幸田半左衛門孝治二男

小十人溝口安九郎組　十口　幸田三次郎孝治

後百俵十口

同日孝治ハ大坂ニ而御頭より奉書を
以テ被召出候也八月朔日突
而参上候而御番を相勤候廿日十口
を給る

延宝八申年三月廿六日廩米百俵
を給る凡百俵十口

元禄二巳年四月十三日桐之間御番

同年八月廿七日死二十一歳
長治の子辰之丞孝治父の嗣て
元禄十四巳年十二月十日本家
幸田彦五郎猶治（養父 なし）養子と
なりて百俵十口ハ本家（実ハ長治の弟ニて猶治の [illegible] なり）

天和元酉年九月廿六日
小十人渥美九郎兵衛組（御番）（小林勝之助正忠三男）（小普請）
百俵十口 小林七左衛門正秀
貞享二丑年二月七日死

天和二戌年三月廿一日

寛文八申年　月　日跡目直ニ御手廻迄

小十人深見九郎兵衛組

越智与三右衛門吉實惣領

御手廻迄

三百石
七石八斗　越智弥太夫吉重

元禄二巳年四月廿八日死　三十四歳

天和二戌年十二月廿一日

小十人[illegible]九郎兵衛組

御手前通

渡辺中庵

天和二戌年四月十日

原田孫兵衛正之嫡子
團平与力

寛文六午年七月十二日番入
小十人浅野九兵衛組　二百石　原田孫右衛門正義

元禄元辰年十二月廿三日元方御納戸

天和二戌年六月三日

浅原又右衛門安村忠順
小普請松浦内蔵允組

延宝五巳年七月十二日跡目

小十人深義九郎兵衛組

二百俵　浅原次郎右衛門安明

改　又右衛門

又三郎

元禄十丁丑年九月二日新番能勢市十郎組

天和三亥年五月廿五日

小十人平野五左衛門組　聟養　百俵十口　矢橋六左衛門重之

矢橋五左衛門重頼二男
小普請大久保佐渡守組

元禄十五年三月十八日新御番松平右近将監組

天和三亥年九月廿八日

小十人市岡左兵衛組九左衛門信安惣領

小十人天野傳四郎組 百俵十口 三橋孫十郎信定 後九左衛門

同日廩米百俵十口を被下

元禄五申年十二月十二日父失跡せしと

かゝ所の料 めしはなたれ遠慮

を免す

宝永五子年九月三日御番入米津周防守組

享保元申年閏二月十九日死 六十三歳

天和三亥年九月廿六日

小十人天野伝四郎組　小十人細井金五郎組勘右衛門重武惣子

百俵十口　澤源七郎満雅

改甚右衛門

同日廩米百俵十口を給ふ

元禄十三辰年九月廿六日父致仕其まゝ家の料同しく遺跡を継す

正徳二辰年八月六日轉入松平主計頭組

享保十一午年十月十六日死

貞享元子年五月廿五日

朝倉勘四郎
小普請

如願

小十人天野傳四郎組

百俵十口

朝倉勘四郎

改
勘七郎

貞享三寅年十二月十九日御腰物奉行

貞享元子年五月廿五日

内藤権右衛門嫡忠顕

小普請

延宝四辰年十二月十二日跡目

小十人天野傳四郎組　百俵十口

内藤宇衛門正明

改 吉兵衛

元禄十六未年三月九日拂方御納戸

貞享元子年十二月廿一日

深沢七左衛門信次惣領
表火之番

七十俵
後百俵十口
二百俵

深沢作兵衛信近

小十人天野傳四郎組

同日二十俵十口を加へ給ひて百俵十口
元禄二巳年正月二十日父信次
細工頭を勤めてありしに御役を
放されて籠居せしうち二月十八日
ほどなくみまかりしかハ其遺跡の
御沙汰に及ハされしと同年十二月

十九日跡目被仰付候ニ付而父之遺跡
二百俵之内より二百俵を除き其外之
百俵十口ハ返し上ル

元禄十六未年六月廿五日辞入松平主計組
享保四亥年八月二日為合同周防守
支配
享保十五戌年十二月二日死

元禄六酉年五月十九日
延宝四辰年十二月家跡目
小十人天野傳四郎組

鳥居又右衛門某男
小普請
二百俵
鳥居精右衛門忠知
改新十郎

元禄十五午年五月　日於小普請入　千俵
被召上入海口杉津守組召日致仕
宝永二酉年八月九日死

元禄六酉年八月十九日

貞享二丑年七月廿九日添日

小十人より天野傳四郎組

柘植清左衛門宗度嫡子

小普請[illegible]丹波守組

二百俵　柘植清左衛門盛貞

後小左衛門

元禄八亥年十二月晦日元方御納戸

元禄六酉年五月十九日

小林七左衛門養子
小普請長谷川丹波守組
百俵十口　小林新六郎正恒

貞享二丑年七月廿九日跡目
小十人天野傳四郎組

宝永元申年六月廿一日小十人組頭
同年十二月十二日御加増百俵是迄
の十口ハ被取上高二百俵
享保三戌年二月廿六日下谷向
柳原新シ橋通りニて居屋鋪の
地を給る
享保八卯年六月十八日替地被下ル

百俵を足しの御加増を蒙る
享保十巳年二月廿八日
天英院君御附御廣敷書役の頭
元文元辰年六月十二日
天英院君の御用人へ替られ并五百俵を
足し給ひ七百俵高にて替免
別に御役料二百俵を給ひて
同年十二月十八日布衣着を免され
元文二巳年八月京都にて近衛
前関白殿下薨去の時ハ
一位様より京都へ御使を命せらる
九月六日御前奉下宿継の御文を

総て同月七日江戸を立ち廿八日京着
御使を勤め十一月六日京を立ち十七日
帰着する
元文五申年十二月廿六日死七十三歳

元禄六酉年五月十九日

大岩志摩守時吉遺跡相続
小普請長坂丹波守組
百俵高　大岩与左衛門時勝

貞享元子年十二月　日遺跡相続
小十人天野傳四郎組

時勝ハ志摩守時吉貞享元子年
八月廿九日兄の仇を江戸ニ而討し
ニ而深手を負ひしニハ之ニ命此
はつんほとに仰を蒙りて
時吉死去し后又従弟近藤
源三郎ハ次男与左衛門時勝を以
て遺跡を継る　時吉兄伊兵衛重次ゝ仇を討しかハり妻しくハ大御番

宝永二酉年まて勤免　三番目の隠居と成る也

宝永三戌年八月廿二日死

元禄六酉年十二月九日

小十人天野傳四郎組　小十人より被召出重知行順

百俵十人扶持　高屋次右衛門利房

改　三右衛門

元禄七戌年正月廿九日廩米百俵

十人扶持ハ上り

宝永四亥年七月廿九日部屋住御番入三枝摂津守組

享保元申年十月廿日跡目二百俵

是まて之百俵十人扶持ハ上ル

享保四亥年八月二日為合田周防守支配

享保十六亥年十二月廿七日致仕死遊

也云

元文二巳年四月二日死六十八歳

元禄六酉年十二月廿日

小十人天野傳四郎組

小十人山本七兵衛組右衛門勝忠惣領

百俵十口　三浦八兵衛某

元禄七戌年正月廿九日廩米百俵

十口ヲ賜ル

任鑿

死

元禄六酉年十二月九日

小十人諏訪八右衛門組四郎右衛門正光総領

小十人天野傳四郎組　百俵十口　窪寺小左衛門某

元禄七戌年正月廿九日廩米百俵十口之扶持

元禄十五午年六月廿八日部屋住死

元禄六酉年十二月九日

小十人天野傳四郎組　御代官長谷川六兵衛安定惣領
百俵十口　長谷川源次郎安忠

元禄七戌年正月廿九日廩米百俵
十口を被下

宝永七寅年 於座敷 任父安定之如願御代官加判

同日是迄の百俵十口ハ弟之丞奉足
無足ニて父ニ付副御代官見習
用向を勤候

正徳二乙年七月廿二日御代官加判

め事止しおゆるて元組小十人
酒井与左衛門組へ帰番

元禄七戌年五月九日
天和二戌年　月　日済
小十人天野傳四郎組
鈴木一学重方忠願
小普請赤坂三夜守組
二百俵　鈴木一學重安
後　傳右衛門
元禄八亥年十二月四日元方御納戸

元禄七戌年五月九日

三浦遠江守某惣領

小普請

小十人天野傳四郎組 二百俵 三浦十兵衛某

元禄十四巳年二月十八日遠島

同日評定所ニおゐて浪人

星野八兵衛か子を多分之金子を

持参金としとて小普請支配某ゟ

三男と偽りて某子に約定せし処

顕出し事不届に思召るとて

八丈島へ流刑に處せらる

安藤筑後守信富傳へて二百俵を
収られ[?]家継へ[?]

元禄七戌年正六月九日

元禄四未年十二月二日家督

小十人天野傳四郎組

荻原[illegible]支配

小普請[?]丹波守組

二百俵　荻原市左衛門友忠

改　権左衛門
　　孫左衛門

正徳二辰年三月廿六日元方御納戸

元禄十四年七月廿二日

赤井中左衛門正房惣領
小普請大久保玄蕃頭組
二百俵　赤井荘四郎時房

宝永七寅年七月九日添日
小十人六郷主馬組

正徳二辰年三月廿六日拂方御納戸

元禄十五年七月廿三日

小濱利右衛門某惣領

小普請[illegible]田河内守組

元禄七戌年十二月十二日跡目

小十人六郷主馬組

二百俵　小濱彦太郎　某

元禄十四巳年八月廿五日不相應小普請入

松平主計頭組

同日井上大和守利常服部佐九郎小

石さ迄て御書付ニ應せさる事

有之ハ小普請ゟ入らるへき旨仰

出さる

元禄十五午年十二月五日遠嶋

虎之助某流刑に處せらるゝ也
家絶て二百俵を収らる

元禄十四年七月廿二日

元禄六酉年十二月六日家督

小十人六郷主馬組

宮城三郎右衛門政幸長子
小普請服部河内守組

二百俵

宮城豊右衛門政朝

後 源右衛門

三郎右衛門

宝永三戌年十二月廿八日元方御納戸

元禄十五年七月廿三日

河内七左衛門跡虎之助願
小普請大久保玄蕃頭組
貞享元子年十二月十六日跡目

小十人六郷主馬組　百俵十口　河野彦七郎通恕

元禄十四巳年十二月いまた右郎な
り此ハ本所割下水みし右郎の沈を
読家

宝永二酉年十二月十六日拝入井戸対馬守組
享保十二未年正月廿六日死五十
二峯

元禄十四巳年六月十一日

小十人久津見又助組　中野上役宿谷吉右衛門惣領

百俵十口　宿谷武助　某

後　縫殿

号　

同日廪米百俵十口を被下之

右ハ父吉右衛門某次男ニ而弟ニ記し

八重姫君附御用人ニ被召出候所

連々之儀ハ

正徳五未年十二月廿一日　被任　御書院御小姓組

三枝丹波守組

元禄十六未年五月廿六日

有田権右衛門政忠嫡子
小普請溝口摂津守組

二百俵　有田権右衛門政長

元禄二巳年十二月十九日跡目

小十人久津見又助組

享保三戌年十二月九日番入松平伊豆守組

享保四亥年六月朔日死

元禄十六未年五月廿六日

元禄十二卯年七月十二日家督

小十人久津見又助組

金沢四郎右衛門六男惣子

小普請井戸對馬守組

二百俵 金沢市左衛門修江（ノリヒロ）

改 傳左衛門

宝永六丑年九月廿二日吹上にて大的
御覧射手ニ列して同月廿七日
営中に召されて黄金一枚を給る
正徳元卯年四月廿六日吹上ニおゐて
大的御覧の射手に加へられて五月
十二日営中に召されて黄金一枚を給る

正徳五未年四月晦日小十人組頭

同年八月四日死五十九歳

元禄十六未年五月廿六日

成田八右衛門跡道忠願
小普請松平主計頭組

元禄十三辰年七月十日跡目
小十人久津見文助組

百俵十口
成田源八郎勝安

正徳五未年七月廿九日死

五月廿六日右病不出仕
元禄十六未年六月六日

元禄九子年十二月九日跡目
小十人久津見又助組

山田六右衛門元親忠順
小普請溝口摂津守組
百五十石
内五十俵
山田平之助元貞
改 助右衛門

享保四亥年十二月十八日
天英院様御廣敷御用達
享保七寅年七月十三日死

元禄十六未年八月六日

桂昌院様御賄頭大沢源右衛門惣領

小十人久津見又助組　百俵十口　大沢源蔵正雄

後二百五十俵

同日廩米百俵十口を被下

宝永二酉年九月廿九日御目見二百五十

俵是まての二百俵ハ二つへ被下る

享保六丑年閏七月廿六日元方御納戸

元禄十六未年五月廿六日

折井伊左衛門正次惣領
冨士見番

元禄八亥年六月廿一日家督
同年同月廿八日冨士見番

小十人久津見又助組　百俵

折井吉右衛門正隆

享保八卯年二月廿八日轉入大嶋肥前守組

宝暦元未年八月九日致仕

宝暦三酉年九月十五日死八十六歳

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan